

新しいシニア像を示そう

来年春から始まる団塊世代の大量定年を控え、第三回「団塊サミット in 丹沢」が二日、神奈川県秦野市文化会館で開かれた。プロデューサーの残間里江子さんが基調講演で「新しいシニア像を示して」とエールを送った。

(広川一人)

団塊サミット in 丹沢

「年越せば近づき、講演でこころ吡^しやると、会蕎^{そば}麦打ち男が増える季節。場は盛り上がった。でも、ただで近所や身内に配っているうちはダメ。注 芸男もいる。NPO法人は文を受け、お金と批判も受け取る。他流試合をしなれど、消えていくのも五百くちや」

残間さんは「立ち上が NPO男も、淘汰されていく。団塊人よ」と題した。



懇親会ではみんな輪になって合唱したりいずれも神奈川県秦野市で



「定年後は自分を転がしてほしい」と話す残間里江子さん

プロデューサーの残間里江子さん

「趣味人生で満足しないで」

参加者は二百人を超え、団塊世代や定年後に興味に生きる男性も多い。核心を突かれたのか「俺のことも」と照れ笑いし、「趣味人生で満足するな。定年後二十年もあるのだから、真剣に取り組めば本物になれる」という趣旨の激励にうなずいていた。

残間さんは一九五〇年の早生まれ。団塊男に手厳しいのも「四九年の丑年と同じ。そのうえで「声を出せ級生で、団塊の一員」だから、世の中が変わっていった。昨年七月、クリエイク。遅くとも二〇〇八年秋タイプ・シニア社をつくまで、これまでも違うシリ、シニア世代を元気にするプロジェクトを提案して訴えた。

地域貢献に熱い期待

講演後、「団塊パワーで地域創造を」をテーマに三つの分科会で話し合った。総括討論で、東京都総務局局務担当部長の木谷正道さん(左)は、「介護サービスや耐震の街づくりなど地域発の取り組みが出てきた。新しい公共のあり方とは、地域住民が中心になっていくことが大切。団塊世代への期待も大きい」。

NPO法人自然塾丹沢ドン会理事長の岡進さん(右)は、都会の人が荒れた森林の管理や里山保全に

かかわる動きを報告。北鎌倉湧水ネットワーク代表の野口稔さん(左)は、自ら一足先に地域デビューし、実践していることを紹介し「楽しみながら地域に参加を」とアドバイスした。

コーディネーターを務めた元NHKアナウンサーで、すぎなみ地域大学学長の松田輝雄さん(右)は、「地産地消も地域への大事な貢献。これまで培った能力やお金など、いま持っているものを地域で使い切って」と締めくくった。